

やすうら 記憶遺産 第30話 亀山八幡宮の狛犬

連載「やすうら記憶遺産」とは？

安浦町の風物を描き残した画家・山本譲（1904-1994）の400枚にのぼる絵を通して、明治から昭和に至る安浦町の歴史や記憶を掘り起こし、絵の中の人々の暮らしを後世に伝えていく取り組みです。

まちづくり広報誌「TANTO」紙上で2016（平成28）年No.28／9月号から連載を始め、今回で30回目のお話となります。

安浦の亀山八幡宮には、狛犬（こまいぬ）が置かれています。この絵には、境内入口に立つ大きな標柱（しめばしら）と共に、一対として置かれた狛犬の姿が見えます。子にお乳をあげる構え型の狛犬の姿をしています。

座型（座った型）、と構え型（立ち上がった型）の2つの型を主とする、出雲に見られた型に影響を受けたものと考えられています。子に乳をふくませる姿というのは非常に珍しいそう。この乳のみ狛犬は1839（天保10）年、尾道の石工・鳥居（島屋）勘十郎という人物が造ったもので、勘十郎は全国に知られた名工だったとのこと。石塔や鳥居、狛犬や灯籠など様々な石造物を造る石工の中でも、尾道の石工たちの腕前はいへん優れ、瀬戸内海沿岸各地に尾道石工の手になるものが残っています。安浦では亀山八幡宮のほか、中切の森神社の狛犬、内海の大歳神社の狛犬が尾道石工たちの手になるものだそう。

狛犬は、神様がいる神聖な場所を守護する役割を持っています。そのルーツを辿ると、中国の聖獣・獅子へ、さらには古代エジプト、ギリシャ・ローマのライオン像へとつながるともいわれます。時代や国を超えて、世界中の文化がつながりを持っていることにも思いを馳せてみたいですね。

参考文献
西井亨、尾道市歴史まちづくり推進協議会、尾道の石造物と石工、尾道市歴史まちづくり推進協議会、2016、163p.、（尾道市日本遺産調査報告書1）、http://www.city.onomichi.hiroshima.jp/uploaded/life/3009_54415_misc.pdf.（参照 2023-11-15）



安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261 (年4回発行)

安浦まるごと博物館構想倶楽部(YMHC)

安浦まるごと博物館構想倶楽部(YMHC)は、2022(令和4)年度の計画として、町内の学校や公共施設に山本譲の風物画を展示し、町内外の人々に鑑賞していただく事業を始めました。展示絵画は3～5ヶ月ごとに入れ替え、将来的には全作品を皆さんに見ていただけるようになる予定です。

現在、9つの施設で展示を行っています。

展示希望の施設がある場合は、安浦町まちづくり協議会(TEL:0823-84-2261)まで、お申し込みください。

山本譲の風物画 展示箇所

- ◆安浦中学校 ◆安浦小学校 ◆安浦郵便局 ◆安浦まちづくりセンター
- ◆安浦町歴史民俗資料館 ◆うどん処やまき醤油蔵
- ◆安登小学校 ◆安登郵便局 ◆呉市国民健康保険安浦診療所



安浦小学校



安浦郵便局



安浦まちづくりセンター

やすうら再発見 散策のすすめ ◆野呂山 伊音城弘法寺 ～神秘的ですばらしい眺望～

野呂山は、瀬戸内海国立公園の中では六甲山に次いで2番目に高く標高839m、気温は平地に比べると約5度位低く、自然と触れあうには身近な山です。

野呂山の東に位置する伊音城弘法寺は、弘法大師(774～835)が19歳、49歳と2度にわたり岩屋で修行された場所と伝えられています。

お堂は明応年間(1492～1501)頃に建立されたと思われ、その後度々補修、改築、再建を経て現在に至っています。

伝えられるところによると、川尻海上で漁をしていた人が、毎夜野呂山山頂に何か光るものが見えたので登ってみると、弘法大師像と梵鐘の破片が散乱していました。そこで、安浦町中切地区の人々が相談して岩窟にお堂を建て、弘法大師を祀り毎月21日の大師の命日に御影供養の法要をするようになり、現在に至るまで続けられています。これらのご縁で中切地区のみなさんは、参詣道の清掃、森林の手入れ、遊歩道の整備や参詣者への接待などをされています。

野呂山伊音城弘法寺岩屋(本堂)、弘法寺岩屋八十八ヶ所、弘法寺梵鐘は、呉市有形文化財に指定されています。

眺望がすばらしく、石鎚山、来島海峡大橋、広島空港なども見ることができます。

静寂の中 風の音 小鳥のさえずり 森林のかおりなど体感してみたいはいかがですか。



野呂山伊音城 弘法寺



弘法寺梵鐘



弘法寺から瀬戸内海・四国方面



弘法寺岩屋八十八ヶ所

内平地区 盆踊り復活!! グラウンドゴルフ大会で盛りあがる

内平地区ではこの夏、約半世紀ぶりに盆踊り大会を行いました。コロナ禍では、不幸があった事も後から聞くような昨今ですが先祖供養のため、実行委員が中心となって準備から片付けまでアイデアを出し合いながら楽しく進めることが出来ました。踊りの練習は真木(藤間利鳳)先生に教えて頂いたことにより、当日はみんなで作った櫓を中心に老若男女が踊り、帰省した子たちも加わって楽しい思い出になりました。

また、集会所の前にある畑を細川さんがグラウンドゴルフ場として整備され、こけら落としに内平老人会で大会を実施し大変盛り上がりしました。みなさん是非遊びにおいで下さい。



安浦青空マルシェ

時間 9:00～11:00

場所 JR安浦駅前

※前日土曜日12:00時点で天気予報に☔があれば中止です。

毎月
第2日曜日
開催中



38年間ありがとう、 グリーンピアせとうち



こどもの国



海と島の博覧会ひろしま(安浦会場)



第9回全国豊かな海づくり大会
式典会場(手前テント)と
アトラクション会場(後方)



芝生広場ステージ



レインボーホールでの
キャラクターショー



第9回全国豊かな海づくり大会
放流行事特設フロートデッキ



サンシャインプール



海水浴場オレンジビーチ



1889(平成元)年9月10日
第9回全国豊かな海づくり大会



第9回全国豊かな海づくり大会



入場ゲート(現在は開放中)



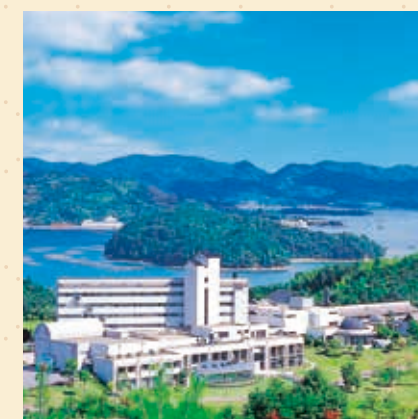
客室からの花火



大浴場お湯都びあ



海水湖でSUP体験



グリーンピアせとうち

グリーンピアせとうちは、1985(昭和60)年4月20日に「グリーンピア安浦」としてオープンし、38年間運営体制や名前を変えながらも、安浦町に存在してきました。

当時は「ひろしまこどもの国」海と緑と太陽をテーマにした瀬戸内のリゾートとして、広大な敷地内に多くの施設があり、現在の親世代なら多くの方が一度は子ども時代に訪れていることでしょう。

今現在、呉市からの委託を受けて運営しているのは(一財)休暇村協会です。災害時にいち早く、お風呂を無料開放したことに、川尻町・安浦町の住民の皆さんからの感謝の声を多く聞きます。そんなグリーンピアせとうちは2024(令和6)年3月31日で休暇村協会の運営が終了します。4月からは民間の企業が呉市から買い取り運営する予定です。

グリーンピアは愛情でできている

2017年夏、「グリーンピアせとうち」へ赴いた日を思い出します。芝生広場では、鹿の群れが草を食べています。広大な草原をどうやって刈ろうかと途方に暮れていたところ、地域の皆さんが草を刈ってくださいました。感謝(涙)。地域愛の様な愛情が伝わり、満点の星空とホテルを見上げて「このホテルに全力で愛情を注ぐ!」と誓いました。西日本豪雨災害の際、温泉の無料開放をしたことで少し恩返しが出来たと思います。コロナ禍を経て、年間1万人が泊まる西日本一の修学旅行の宿に成長しました。「グリーンピアせとうち」は38年の歴史に幕を閉じますが、「グリーンピアは沢山の愛情で出来ている」という記憶は永遠です。

高山支配人の想い



水ヶ浦山と瀬戸内プランコ



せとうちリビング(以前の喫茶室)



気球と芝生広場



芝生広場から見える横島

グリーンピアせとうち最後の打ち上げ花火を応援しよう!

グリーンピアせとうちFINAL花火

※事前予約制

日時 2023年12月23日
入場 18:00/開始 19:30~

チケット販売窓口 グリーンピアせとうちフロント(11:00~14:00)
スマホで予約 カード決済

◆ 1人1,000円(税込) 3歳以下無料 ※参加者の人数で打ち上げ規模が変わります。

チケット販売は
こちらから

